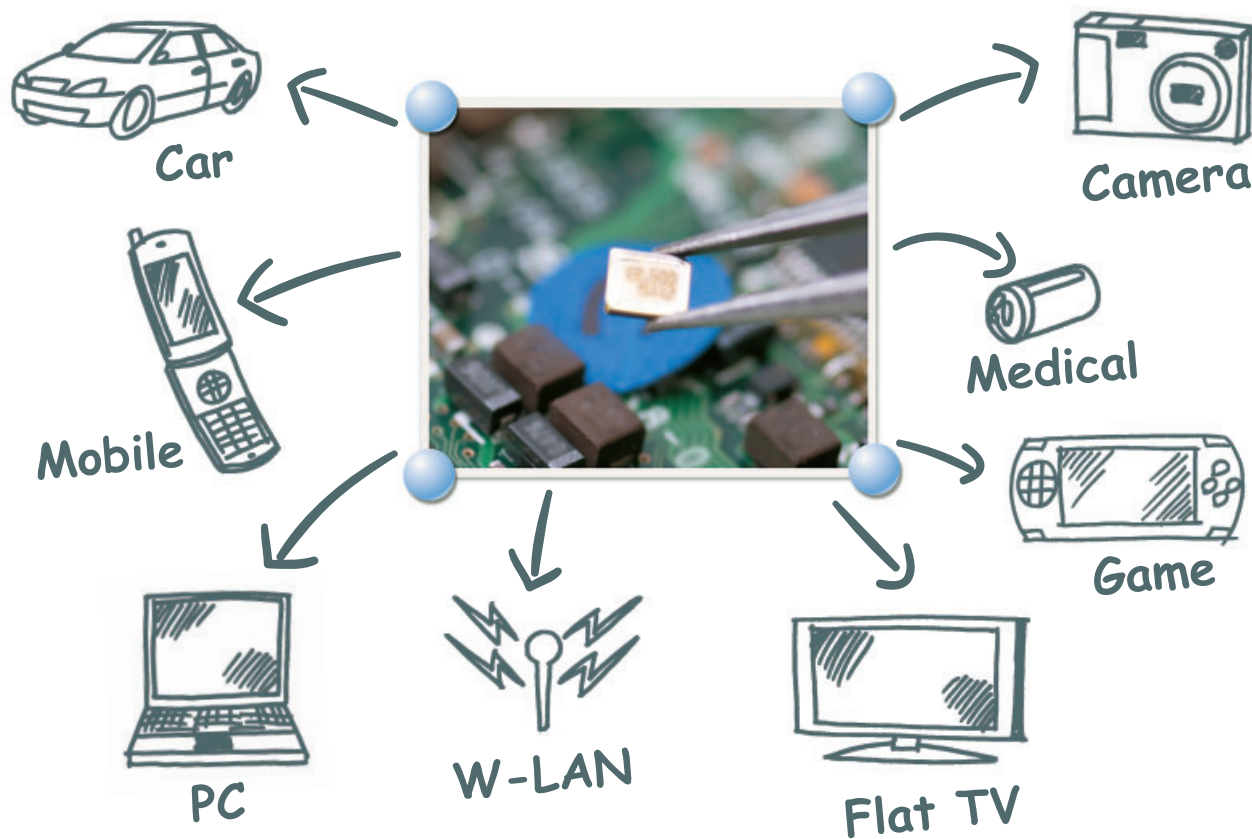


第61期 事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日

あらゆるエレクトロニクス製品に



CONTENTS

株主のみなさまへ.....	1
リバグループ中期経営計画.....	3
コラム.....	5
トピックス.....	6
連結業績の概況.....	7
連結財務諸表.....	9
単独財務諸表	11
株主さまアンケート	12
会社の概要	13
株式の状況	14



代表取締役社長

若尾 富士男

株主のみなさまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、第61期（2005年4月1日から2006年3月31日まで）の業績につきましてご報告申し上げます。

● 業績と配当について

当期の連結の業績は、売上高8,045百万円、経常利益476百万円、当期純利益171百万円となり、中間決算時にご報告申し上げました144百万円という当期純利益の目標は達成することはできませんでしたが、年初の目標であった363百万円は下回る結果となってしまいました。当期の配当金につきましては、業績および配当方針などを勘案し、1株当たり前期の記念配当3円を除いた15円とさせていただきます。

● 当社グループの事業環境

当期の水晶業界は、携帯電話向けやカーエレクトロニクス向けの需要が堅調に推移しましたが、デジタル家電の値崩れなどの影響もあり、販売価格の値下げ要求が厳しく、金額ベ

ースにおいては、生産数量ほどの成長はありませんでした。

このような環境のなか、当社グループは、成長市場である無線LANやブルートゥースといった近距離無線通信向けやカーエレクトロニクス向けに重点的に事業展開を図ることで、販売数量の増加とともに販売価格の維持・向上にも努めてまいりました。上半期においては、プロダクトミックスの変化、競争激化による販売価格の下落および生産体制の強化に伴う人件費の増加などにより、期初に見込んだ利益に対し、減益となりましたが、下半期に入ってから量産効果によるコストダウン効果が現れ始め、大幅に利益率は改善しております。

● 中期経営計画の進捗状況

昨春、当社グループは、「高付加価値企業の実現」を目指し中期経営計画をスタートさせました。これを達成するために、「顧客の満足と信頼の獲得」、「独創的発想による価値の創造」、「事業改革による持続的な成長」を経営方針として定め、引き続き当社グループの企業価値向上に努めてまいります。(P.3のリバークラウド中期経営計画をご参照ください。)

● 利益配分に関する基本方針について

当社は、利益配分に関する基本方針として、企業価値および株主価値の向上のために、中長期的な企業成長を見据えた設備投資と健全な財務体質を考慮しながら安定的な配当で報いていきたいと考えております。定量的な目標としては、配当性向を連結当期純利益の20%を最低ラインとして維持していく方針であります。

● 最後に

デジタル機器市場の拡大、ユビキタス社会の到来等、水晶業界が今後も成長を続けていくことは明らかとなっておりますが、世界情勢の不安定化、原油高、価格競争などといったさまざまな不確定要素が事業環境を大きく変化させるリスクとして常に潜在しております。当社グループでは、こうしたリスクに対応できるよう中期経営計画を現在推進しております。

全てのステークホルダーの満足度を高めるとともに、当社グループを取り巻く厳しい事業環境のなかで成長していくために経営方針を確実に実行し、中期経営計画を達成していくことがリバークラウドの役員全員に課せられた使命であると考えております。

株主のみならず皆様におかれましては、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



●リバーグループ中期経営計画

当社グループは、2006年3月期を初年度とした中期経営計画を現在推進しています。そのなかにおいて企業の収益性、効率性、財務体制の強化を図るため、連結ベースにおける売上高経常利益率とROE（株主資本利益率）を重要経営指標として掲げております。

また、「超小型化」、「高性能・高品質化」をコアコンピタンスとして、競合他社との優位性を明確にし、お得意さまに支持される「高付加価値企業」を目指します。

そのためには、中期経営計画の経営方針である「顧客の満足と信頼の獲得」、「独創的発想による価値の創造」、「事業改革による持続的な成長」を確実に実行していくことが最重要課題であると考えております。

売上高経常利益率 10%以上
ROE（株主資本利益率） 7%以上



●経営方針1 顧客の満足と信頼の獲得

商品開発部門と営業部門が一体となった提案型技術営業力の強化と試作品の短納期化を継続してまいります。

成長分野へFocus & Deep（絞込みと深耕）し、市場創造と収益力向上を果たすために、営業サイドはキーとなるアプリケーションに関する知識を、商品開発サイドは新商品に関する拡販体制を強化することで、提案型技術営業力を強化し、お得意さまの満足度を高めていきます。

また、水晶製品は、外見は同じでもその中に収められている水晶片は、それぞれのエレクトロニクス製品から要求される仕様によって、まったく違うものになるため、そのほとんどがオーダーメイドとなります。よってお得意さまの求める水晶製品のMK（試作）品の早期提供、当社製品を用いた電子回路の設計アシストなどがお得意さまの満足度向上につながり、それらのクイックな対応で競争優位性を図り、ビジネスチャンスの拡大に努めていきます。

また、製造サイドにおいては、クレームゼロに向けた施策に取り組んでいきます。ここ数年、カーエレクトロニクス向けなど高品質・高信頼性が要求される分野での需要が増えており、高品質・高信頼性の製品を提供し続けることにより、お得意さまの信頼を獲得し、ビジネスチャンスにつなげていきます。

提案型技術営業力の強化

MK（試作）品の短納期化

クレームゼロへの挑戦

●経営方針2 独創的発想による価値の創造

極小水晶片の微細加工技術や電子ビーム封止工法などの高精度パッケージング技術といった要素技術力や独自技術力を駆使し、One & Onlyとなる小型・高性能の水晶製品の開発を行うとともに、それら製品の早期立ち上げを可能とする生産設備開発力の強化を図っていきます。

水晶製品市場は、いくつかの分野に大別されますが、そのなかの音叉型水晶振動子市場に本格的に参入していきます。音叉型水晶振動子は、エレクトロニクス製品の時計機能に使われるデバイスであり、市場規模は大きく、成長率も高い市場であります。また、携帯電話や小型ノートパソコンなど小型SMD（表面実装）タイプの需要が急拡大してきており、当社グループは、独自工法である電子ビーム封止を駆使した超小型SMD製品で市場を開拓していきます。

また、水晶製品はその中に搭載される水晶片のサイズにより、発振する周波数が決まることから製品サイズからくる制約により、その製品の対応周波数帯に限られてくることになります。当社グループでは独自工法による微細加工技術を強化することで対応周波数帯を広範囲化し、お得意さまがいままで、欲しくても対応できなかったサイズでの需要を取り込んでいきます。

One & Only製品の開発

音叉市場への本格的参入

対応周波数帯の拡大（広範囲化）

●経営方針3 事業改革による持続的な成長

近距離無線通信、携帯電話、カーエレクトロニクスといった成長市場への重点的な販売展開を継続していきます。加えて、新たな収益基盤の構築に向けた研究開発投資や事業改革を行っていきます。海外子会社であるRIVER ELECTRONICS（IPOH）SDN. BHD.はこれまで水晶事業を行っていませんでしたが、水晶片前工程の一部生産を2月に決定し、7月から生産を開始する予定です。また、台湾利巴股份有限公司は販売事業のほかに製造事業も手がけていましたが、中国・台湾への販売強化を図るべく、販売事業の一本化に踏み切りました。当社は、常に時代にマッチしたリバーグループの構築を目指します。

また、内部統制システムの継続的改善とマネジメント力の強化のため、経営管理システムを強化するとともに、社員育成制度を拡充し、業務品質の向上を目指していきます。

販売ターゲットのFocus & Deep

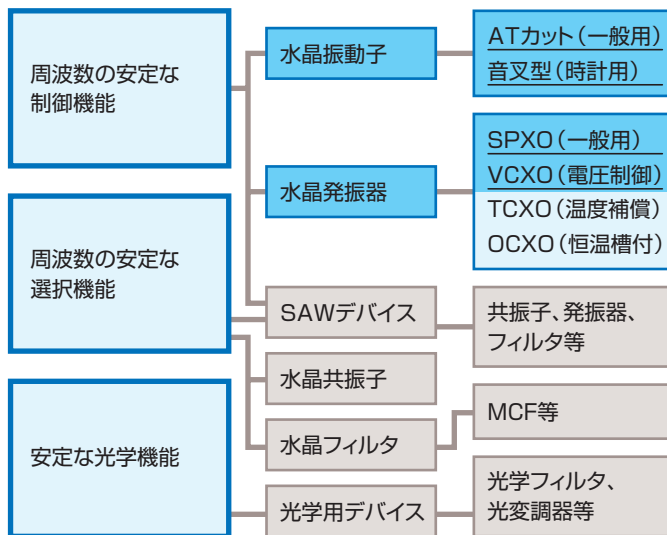
新たな収益基盤の構築

内部管理体制の強化

水晶デバイスとは

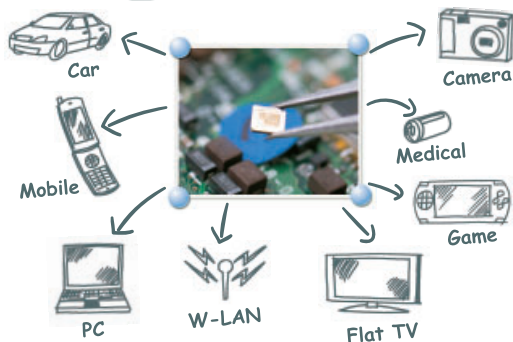
みなさんは携帯電話やパソコンの中に水晶デバイスが入っていることをご存知でしょうか。これらの電子機器の中には必ずコンピュータが組み込まれていますが、そのコンピュータのCPU（中央処理装置）の周辺にあるさまざまな回路を、タイミング良く動かすために、正確な基準信号（クロック周波数）を作り出す指揮者のような役割を水晶デバイスが行っているのです。また、テレビや衛星通信といった通信機器は、声や画像といった情報を、決められた電波により、送信または受信しており、ここにも水晶の安定した基準信号が使われています。このほかにも水晶デバイスは、安定な光学機能を持っており、その種類は右図のようになります。当社グループは、このなかで水晶振動子と水晶発振器の製造販売を行っています。

■水晶デバイスの種類



■は当社グループで製造・販売している水晶デバイス

あらゆるエレクトロニクス製品に



あらゆるエレクトロニクス製品に

このように水晶デバイスは、古くはクォーツ時計に始まり、携帯電話、デジタル家電、カーエレクトロニクスや内視鏡カプセルといった最先端の医療機器にいたるまで、さまざまな分野に使われており、今後もネットワーク社会が進展するなか、その裾野は大きな広がりを見せています。

まさに水晶デバイスは、あらゆるデジタル製品に使われている電子デバイスなのです。

水晶デバイスの水晶は養殖もの？

水晶デバイスに使う水晶は天然のものではなく、オートクレーブという炉で作られた人工水晶を使っています。天然水晶には不純物が含まれているなど、電子デバイスには適していません。人工水晶は右の写真のように加工に適した寸法、形状に育成します。料理や宝石では天然ものが好まれますが、電子デバイスにおいては養殖（人工）ものが好まれるのです。

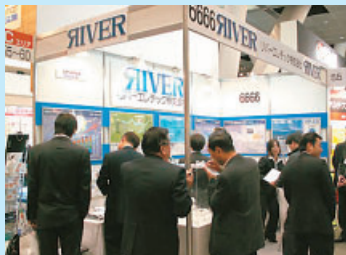


トピックス

ノムラ資産管理フェアへの出展

IR活動の一環として、野村證券株式会社が主催する個人投資家向けの「第8回ノムラ資産管理フェア」(2005年12月2日(金)～3日(土))に当社ブースを出展しました。

講演会と展示会をあわせて2日間で2万人を超える来場者があり、当社ブースにも1,000名を超えるお客さまがお越しになり、大盛況のうちに終了しました。日常生活において、直接目に触れることのない当社製品を多くの方にご覧いただき、水晶市場の将来性を理解していただく非常によい機会になりました。本年も同フェアに出展する予定です。



「東北七県電力活用推進委員会委員長賞」受賞！

2005年、製造子会社である青森リバーテクノ株式会社にてエネルギー管理（省エネ）活動が認められ、「東北七県電力活用推進委員会委員長賞」を受賞しました。

電力削減のため、空調機屋外機の熱交換器への水噴霧による冷却や空調機のこれまでの電気ヒーターによるパン型加湿器を超音波加湿器へ変更したことなどの活動が評価されました。今後もエネルギー問題に真剣に取り組み社会に貢献できる事業活動を行っていきます。



●当期の概況

当期におけるわが国経済は、好調な企業収益に支えられ、設備投資が増加し、雇用と賃金の改善を反映して個人消費も増加基調にあるなど、景気回復に力強さがでてまいりました。

しかしながら当社グループが主に事業を展開する水晶デバイス業界は、デジタル家電や携帯電話、カーエレクトロニクス市場などの活況により、生産数量は好調であったものの、金額ベースでは数量ベースほどの成長はなく、厳しい経営環境にありました。

このような環境のなかで、当社グループは、「高付加価値企業の実現」を目指した中期経営計画のもと、グループの強みである「小型化・高性能化・高品質化」を生かし、超小型のSMD型水晶製品への注力および近距離無線通信、カーエレクトロニクスなどの成長市場への販売基盤のシフトを明確にし、集中的に事業展開を行ってまいりました。また、厳しい価格競争に対応できるようコスト削減の施策を継続的に推進し、利益体質の改善に努めました。

この結果、当期の連結売上高は、抵抗器やインダクタ、またOEM委託されたリチウムコイン電池の前年生産終了に伴う売上の減少があったものの、水晶製品の売上が増加し、8,045百万円（前期比6.9%増）となりました。

利益面におきましては、水晶製品の販売数量の増加による増収効果はありましたが、販売価格の下落による利益の減少を吸収しきれず、また海外の拡販活動に伴う販売費の増加などもあり、営業利益は370百万円（同29.2%減）となりました。連結経常利益は、材料屑売却益の増加や為替差益の発生により476百万円（同17.3%減）となりましたが、連結当期純利益は、固定資産除却損や減損会計の適用による特別損失が大きく、171百万円（同48.1%減）となりました。

●次期の見通し

今後の見通しにつきましては、引き続き緩やかな景気回復が予想されますが、原油価格の高騰やそれに伴う原材料価格の上昇など、楽観視できない状況にあります。

このような環境下のなか、当社グループは引き続き、水晶製品事業に経営資本を重点的に投下し、超小型・高性能化されたSMD（表面実装）型製品の開発供給を進めるとともに、マーケティング力の強化を図り、次なる成長基盤の構築に努めてまいります。アプリケーションターゲットは、引き続き、近距離無線通信、携帯電話、カーエレクトロニクス市場に重点的に販売展開を図り、加えて製品小型化の要求が増えつつある中国を中心とした海外市場でのシェアを伸ばすことで当期を上回る売上を予想しています。

抵抗器およびインダクタ事業は、製品の汎用化に伴う価格競争など、厳しい事業環境が予想され、売上高は当期を下回ることを予想しております。

また、品質の継続的改善を推進し、コスト削減に努めるとともに経営管理システムを強化し、利益体質の改善を推進してまいります。

以上により、当社グループの2007年3月期の連結業績の見通しにつきましては、次のとおりと予想しております。

売上高	8,703百万円	（前期比 8.2%増）
営業利益	693百万円	（前期比87.2%増）
経常利益	649百万円	（前期比36.3%増）
当期純利益	312百万円	（前期比82.7%増）

●セグメント別営業概況

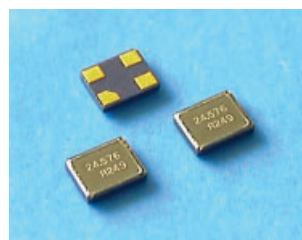
水晶製品におきましては、デジタルカメラ向けは、国内のコンパクトデジタルカメラ市場の競争激化による影響を受け、販売価格の下落が大きく前期の売上高を下回りました。

無線LAN・ブルートゥースなどの近距離無線通信向けは、当社グループの得意としております超小型製品と携帯電話・ゲーム機器市場とのニーズがマッチし、売上が急伸びしました。

カーエレクトロニクス向けは、キーレスエントリー向け、カーナビゲーション向けを中心に安定的に成長し、前期の売上高を上回りました。高品質、高信頼性が要求されるカーエレクトロニクス市場において当社の製品は高い評価をいただきました。

製品につきましては、世界最小クラス（長さ2.5mm×幅2.0mm）である水晶振動子FCX-05や水晶発振器FCXO-05の販売拡大が前期の売上高を大きく上回る原動力となりました。

また、11月に世界最小クラス（長さ3.2mm×幅1.5mm）となる音叉型水晶振動子TFX-02を新規投入し、音叉型水晶振動子のラインアップを拡充しました。



FCX-05



TFX-02

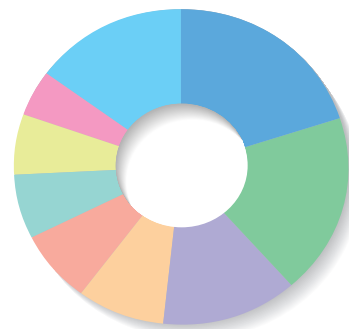
抵抗器におきましては、海外市場のみで事業展開しており、主としてAV機器や電源などに使われております。

当事業の売上高は、価格競争の激化による販売価格の下落などにより前期を下回りました。

インダクタにおきましては、主としてAV機器や照明機器などに販売を展開しております。

当事業の売上高は、販売価格は安定していたものの、ブラウン管テレビ向けの販売数量が減少したことなどにより前期を下回りました。

アプリケーション別売上高構成比(水晶製品)



無線モジュール	20.0%
デジタルスチルカメラ	18.5%
カーエレクトロニクス	13.2%
パソコン及び周辺機器	8.5%
携帯電話	7.4%
デジタルビデオカメラ	6.6%
フラットTV	6.2%
AVチューナー	4.7%
その他(OA、ゲーム、医療機器等)	14.9%

● 連結貸借対照表 (要旨)

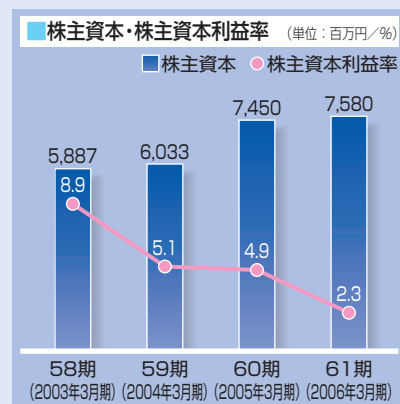
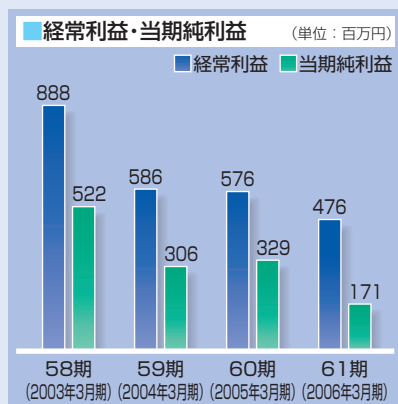
(単位：千円)

科目	期別 前期 (2005年3月31日現在)	当期 (2006年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	5,593,264	5,537,651
固定資産	5,930,345	6,398,426
有形固定資産	5,524,456	5,954,921
無形固定資産	16,074	24,076
投資その他の資産	389,814	419,428
繰延資産	10,483	5,241
資産合計	11,534,093	11,941,319
(負債の部)		
流動負債	3,153,372	3,015,214
固定負債	645,711	1,031,127
負債合計	3,799,084	4,046,342
少数株主持分	284,233	314,148
(資本の部)		
資本金	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810
利益剰余金	5,633,923	5,652,666
その他有価証券評価差額金	27,182	54,626
為替換算調整勘定	△ 238,660	△ 153,918
自己株式	—	△ 875
資本合計	7,450,775	7,580,828
負債、少数株主持分及び資本合計	11,534,093	11,941,319

● 連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別 前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)
売上高	7,525,470	8,045,511
売上原価	5,464,581	6,050,092
売上総利益	2,060,889	1,995,419
販売費及び一般管理費	1,537,654	1,625,133
営業利益	523,234	370,285
営業外収益	89,702	142,584
営業外費用	36,710	36,575
経常利益	576,226	476,294
特別利益	26,986	1,923
特別損失	32,744	148,099
税金等調整前当期純利益	570,468	330,117
法人税、住民税及び事業税	294,877	191,688
法人税等調整額	△ 57,150	△ 30,764
少数株主利益 (損失：△)	2,777	△ 2,017
当期純利益	329,964	171,210

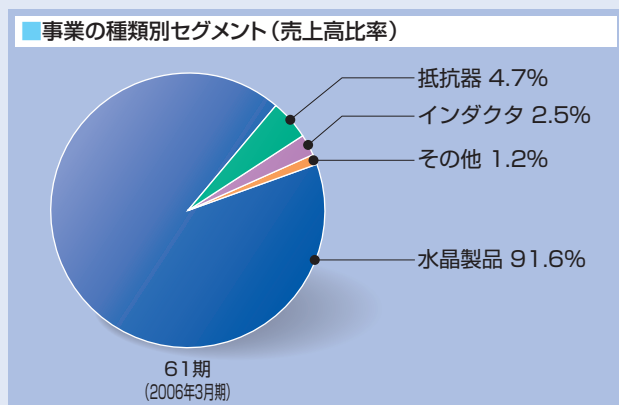
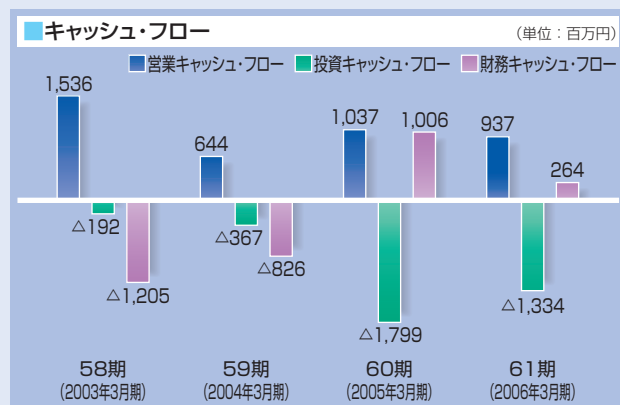


● 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位：千円)

科目	期別	前期	当期
		(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2005年4月1日から 2006年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,037,610	937,366
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,799,403	△ 1,334,102
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,006,935	264,658
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 3,825	49,106
現金及び現金同等物の増減額		241,317	△ 82,970
現金及び現金同等物の期首残高		984,009	1,225,326
現金及び現金同等物の期末残高		1,225,326	1,142,356

● 事業の種類別セグメント情報 (単位：千円)

科目	期別	前期	当期
		(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2005年4月1日から 2006年3月31日まで)
(売上高)			
水晶製品		5,976,169	7,367,733
抵抗器		471,663	381,332
インダクタ		233,191	196,953
リチウムコイン電池		738,244	—
その他		106,201	99,491
(営業利益)			
水晶製品		1,270,324	1,157,318
抵抗器		109,635	69,674
インダクタ		43,527	20,778
リチウムコイン電池		13,887	—
その他		6,664	34,154



● 貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	前期	当期
		(2005年3月31日現在)	(2006年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		4,311,479	3,731,460
固定資産		4,502,126	5,046,828
有形固定資産		3,706,837	4,219,532
無形固定資産		10,945	19,044
投資その他の資産		784,342	808,250
繰延資産		10,483	5,241
資産合計		8,824,089	8,783,530
(負債の部)			
流動負債		1,623,418	1,182,777
固定負債		524,743	895,229
負債合計		2,148,162	2,078,007
(資本の部)			
資本金		1,070,520	1,070,520
資本剰余金		957,810	957,810
利益剰余金		4,620,414	4,623,442
株式等評価差額金		27,182	54,626
自己株式		—	△ 875
資本合計		6,675,926	6,705,523
負債及び資本合計		8,824,089	8,783,530

● 損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	前期	当期
		(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2005年4月1日から 2006年3月31日まで)
売上高		6,983,528	7,385,472
売上原価		5,177,513	5,774,629
売上総利益		1,806,014	1,610,843
販売費及び一般管理費		1,245,031	1,296,277
営業利益		560,983	314,565
営業外収益		96,100	43,242
営業外費用		33,268	34,041
経常利益		623,816	323,767
特別利益		26,986	11
特別損失		27,570	51,755
税引前当期純利益		623,231	272,023
法人税、住民税及び事業税		285,228	121,193
法人税等調整額		△ 28,852	△ 4,666
当期純利益		366,854	155,496
前期繰越利益		521,164	267,537
当期末処分利益		888,019	423,033

Q&A

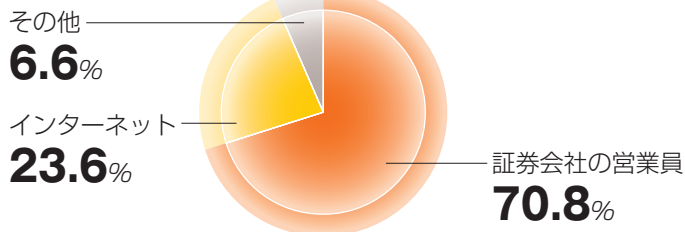
第61期中間事業報告書においてお願いいたしました株主アンケートに多くの株主のみなさまからご回答を頂戴いたしました。

厚くお礼申し上げますとともに、お寄せいただきましたご回答の一部をご紹介します。

株主のみなさまからいただきましたご回答の内容を真摯に受け止め、今後のリバーグループの経営およびIR活動に活かしてまいります。

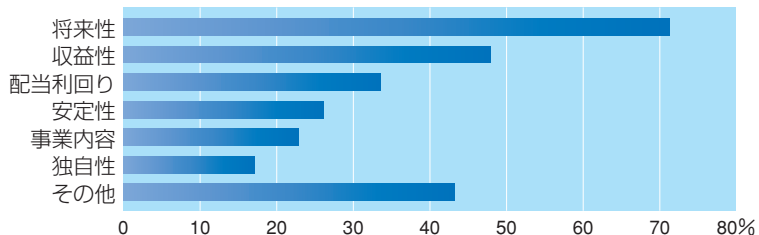
Question 1

あなたは当社の株式を購入する際、社名をどこでお知りになりましたか



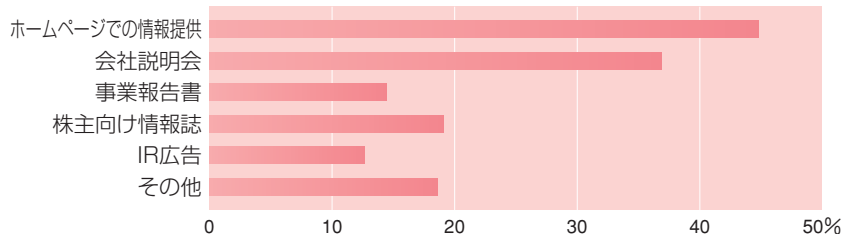
Question 2

あなたが当社の株式を購入された理由は何ですか（複数回答）



Question 3

あなたは当社のIR活動について、特に充実を希望することは何ですか（複数回答）



<http://www.river-ele.co.jp/>

当社に関する最新動向やIR情報をお伝えしております。ご興味のある方はぜひホームページもご覧ください。



● 役員 (2006年6月29日現在)

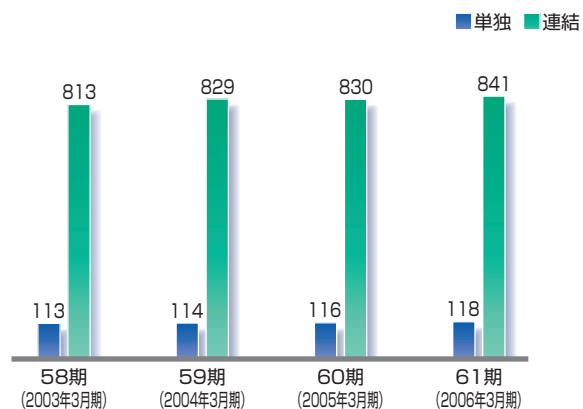
地 位	氏 名
代表取締役社長	若尾 富士男
専務取締役	岩下 功
取 締 役	浅川 芳孝
取 締 役	辻 智晴
取 締 役	秋山 正雄
常勤監査役	江上 年秋
監 査 役	中津山 準一
監 査 役	小林 栢弘

● 従業員の状況

従 業 員 数	118名
平 均 年 齢	36.0歳
平 均 勤 続 年 数	10.1年

従業員数の推移

(単位：名)



注：従業員数は、契約社員および派遣社員などを含んでおります。

● 事業所

名 称	所 在 地
本 社	山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号
東 京 営 業 所	東京都新宿区西新宿4丁目40番14号
大 阪 営 業 所	大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F
名 古 屋 営 業 所	愛知県名古屋市中東区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F
宇 都 宮 営 業 所	栃木県宇都宮市中戸祭1丁目13番27号



本社

株式の状況 (2006年3月31日現在)

●発行株式数および株主数

発行する株式の総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,492,652株
株主数	740名

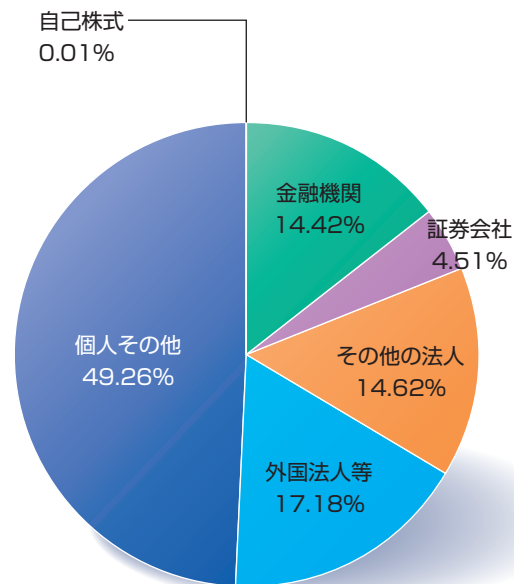
注: 発行済株式の総数には自己株式(968株)が含まれております。

●大株主

大株主(上位10名)	持株数	持株比率
若光株式会社	873,368株	11.66%
エイチエスピーシーバンクビーエルシー アカウント アトランティスジャパングロスファンド	332,000	4.43
ジーピーモルガンチエースシーアールイーエフ ジャステックレンディングアカウント	300,000	4.00
ソシエテ ジェネラル バンク アンド トラスト	294,000	3.92
株式会社山梨中央銀行	268,000	3.58
若尾 亘	253,758	3.39
野村證券株式会社	231,000	3.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	190,000	2.54
持原 和 則	180,000	2.40
持原 ひろ美	168,244	2.25

●株式の所有者別分布状況

所有株式数比率



●リバーエレクトックグループ会社 (2006年4月1日現在)

会社名	資本金	議決権比率	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	50,000千円	100%	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	24,000千ニュー台湾ドル	60	電子部品の販売
RIVER ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.	123千米ドル	100	電子部品の販売
RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN. BHD.	10,695千マレーシアリング	60	電子部品の製造

RIVER

商 号 リバーエレテック株式会社
本 社 〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号
TEL : (0551) 22-1211 (代表)
TEL : (0551) 20-1277 (社長室IR課)
URL : <http://www.river-ele.co.jp/>
設 立 1951年3月9日
資 本 金 1,070百万円

株 主 メ モ

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会 毎年6月開催
基 準 日 定時株主総会 3月31日
期 末 配 当 金 3月31日
中 間 配 当 金 9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に定めることがあります。
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
上 場 証 券 取 引 所 JASDAQ
証 券 ・ 銘 柄 コー ド 6666

お 知 ら せ

住所変更・配当金振込指定書等の用紙を下記の方法で請求できます。

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417

その他のご照会 ☎0120-176-417

インターネットによるご請求先 <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

株式実務のお問い合わせは

電話:0120-176-417

住友信託銀行株式会社 証券代行部



古紙100%配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています